

精神保健福祉センター 所報

平成26年度

鹿児島県精神保健福祉センター

## 巻頭言

平成26年度の鹿児島県精神保健福祉センター所報が完成しましたので、ここにご報告します。

私は富永秀文前所長の定年退職に伴い、平成27年4月1日より当センター所長として赴任いたしました。富永前所長におかれましては、23年という長きにわたり、当センター所長として、鹿児島県の精神保健福祉分野において多大な貢献をなされたことに感謝申し上げます。本当にご苦労様でした。さて私の前任地は鹿児島県立始良病院で、精神科救急医療および最後の2年間は医療観察法病棟担当医として、重大事件を起こした対象者の治療に専念しておりました。今後は当センター所長として職務に邁進する所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

センター業務に関しましては、自立支援医療費、精神障害者保健福祉手帳に関する業務において、年々その判定数が増加しており、平成26年度には自立支援医療費にて2万2千件、精神障害者保健福祉手帳にて1万件を超えております。また精神医療審査会においては、平成26年度は退院請求を受理してから審査結果を通知するまでの期間が平均約40日かかっており、審査の迅速化についての課題もあります。自立支援医療費、精神障害者保健福祉手帳につきましては、昨年度も指摘されたことですが、てんかんや高次脳機能障害、発達障害などの診断で精神科以外の診療科よりの申請も多くなっています。診療科によりその福祉制度への知識の異なりにより、診断書の記載方法などの指導助言が必要となる機会がまだ多く認められます。

平成20年に当センターに設置された高次脳機能障害者支援センターにおいては、相談件数は毎年のように増加し、平成26年度には来所及び電話相談あわせ400件以上にわたっております。高次脳機能障害の対象者の6割は働く世代であり、またその対象者の8割がリハビリ維持期にあたり、相談内容も医療面だけではなく、生活全般や社会復帰に向けた継続的なニーズが高い状況となっています。また平成21年に当センターに設置された自殺予防情報センターにおいては、平成26年度には、来所及び電話相談あわせて、500件以上にわたっております。支援に際しては、相談者の置かれている状況を把握しながら、地域や関係機関の協力を得ながら対応しているところです。また自殺対策関係者研修会も当センターにて年数回開催し、多くの関係機関の職員の参加を得て、各々の日々の業務の参考にしていただいております。

精神保健福祉相談につきましては、昨年度同様多岐にわたる相談がみられます。また発達障害、成人のADHDと考えられる相談も増えており、その家族、職場からの相談も認められます。またネット依存、携帯依存など様々なアディクションの相談も増えている状況です。平成25年度より5疾病・5事業・在宅医療の地域連携体制の中に精神疾患が、がん・脳卒中などの他の疾患と同様組み込まれ、地域の関連医療施設と協力しながら、切れ目なく医療が提供されるよう図っていかなければなりません。その意味においても、当センターのはたす役割が現時点では、まだまだあるのではと思います。

今後、当センターの役割を十分認識しながら、職員一同真摯にすべての業務につきまして取り組んでいきたいと考えております。ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

鹿児島県精神保健福祉センター  
所長 竹之内 薫

# 目次

## 巻頭言

### I 概要

1. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 組織，職員及び施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### II 事業実績

1. 普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 技術援助・教育研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 精神保健福祉相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
4. 調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
5. 関係団体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
6. 精神医療審査会の審査に関する事務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
7. 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務・・ 10
8. 高次脳機能障害者支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
9. 自殺予防情報センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

### III 資料

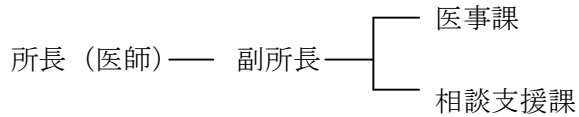
# I 概要

## 1. 沿革

- ・昭和42年4月 「精神衛生センター」として発足
- ・昭和63年7月 精神保健法の施行に伴い、「精神保健センター」に改称
- ・平成7年7月 精神保健法の改正に伴い、「精神保健福祉センター」に改称
- ・平成23年3月 現在地（ハートピアかごしま 2階）に移転

## 2. 組織、職員及び施設概要 (H26.4.1現在)

### ①組織状況



### ②職種別職員数

| 職種 | 精神科医師 | 事務       | 保健師 | 心理 | 計         | 非常勤職員 |
|----|-------|----------|-----|----|-----------|-------|
| 人数 | 1     | 4 (うち兼1) | 4   | 1  | 10 (うち兼1) | 31    |

\*非常勤職員：高次脳機能障害者支援員1人、自殺対策調整員1人

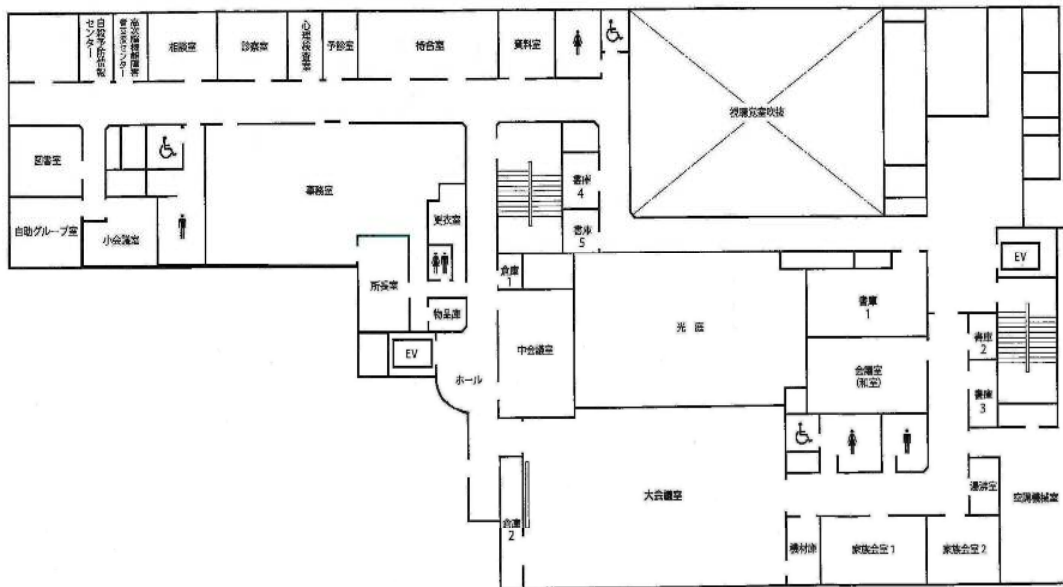
精神医療審査会委員25人

自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳判定会委員4人

### ③施設概要

(1) 所在地：鹿児島市小野一丁目1番1号（ハートピアかごしま 2階）

(2) 平面図



## Ⅱ 事業実績

## 1. 普及啓発

一般住民に対して精神保健福祉や精神障害に関する知識について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して協力及び援助を行っている。

(平成26年度)

| 内容                                | 実施回数 | 参加人数  |
|-----------------------------------|------|-------|
| ひきこもり家族の会                         | 12回  | 77    |
| セルフヘルプフォーラムかごしま (セルフヘルプネットかごしま主催) | 1回   | 113   |
| こころの健康を考えるつどい (鹿児島県精神保健福祉協議会主催)   | 1回   | 147   |
| その他                               | 3回   | 1,640 |
| 計                                 |      | 1,977 |

## 2. 技術援助・教育研修

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係機関に対し、技術援助や研修を行っている。

### ① 技術援助 (平成26年度)

| 項目<br>対象 | 老人<br>精神<br>保健 | 社会<br>復帰 | アル<br>コ<br>ール | 薬<br>物 | 思<br>春<br>期 | ギ<br>ャ<br>ン<br>ブ<br>ル | 心<br>の<br>健<br>康<br>づ<br>く<br>り | ひ<br>き<br>こ<br>も<br>り | 自<br>殺<br>関<br>連 | 犯<br>罪<br>被<br>害 | そ<br>の<br>他 | 計   | 電<br>話 |
|----------|----------------|----------|---------------|--------|-------------|-----------------------|---------------------------------|-----------------------|------------------|------------------|-------------|-----|--------|
| 保健所      |                |          |               |        |             |                       |                                 |                       | 2                |                  | 4           | 6   | 15     |
| 市町村      |                | 1        |               |        |             |                       | 1                               |                       | 6                |                  | 4           | 12  | 15     |
| 医療施設     |                |          |               |        |             |                       |                                 |                       |                  |                  | 18          | 18  | 19     |
| その他      | 5              | 6        |               | 3      | 15          |                       | 40                              | 2                     | 4                | 4                | 49          | 128 | 33     |
| 実施件数     | 5              | 7        | 0             | 3      | 15          | 0                     | 41                              | 2                     | 9                | 4                | 69          | 155 | 82     |

②教育研修（平成26年度）

(1) 思春期精神保健に関する研修会

| 内容  | 参加者数   |
|---|--|
| <p><b>【思春期講座Ⅰ】</b><br/>           講演：「強迫性障害（OCD）のABC」<br/>           講師：日笠山 大介 氏<br/>           （三州病院，三州脇田丘病院，鹿児島メンタルヘルス研究所 理事長）</p>        | <p>保健所，市町村，相談<br/>           機関，児童福祉施設，<br/>           教育機関等<br/>           計68人</p> |
| <p><b>【思春期講座Ⅱ】</b><br/>           （台風のため中止）</p>   |  |
| <p><b>【思春期講座Ⅲ】</b><br/>           講演：「子どもの心身症」<br/>           講師：生駒 季隆 氏 （いこまクリニック 院長）</p>  | <p>保健所，市町村，相談<br/>           機関，児童福祉施設，<br/>           教育機関等<br/>           計51人</p> |
| <p><b>【思春期事例検討会】</b><br/>           講師：吉田 巖 氏 （鹿児島県中央児童相談所 精神科医）</p>  | <p>保健所，市町村，相談<br/>           機関，児童福祉施設，<br/>           教育機関等<br/>           計23人</p> |
| <p><b>【思春期精神保健福祉従事者研修会】</b><br/>           講演：「子どもの性行動の理解と対応」<br/>           講師：浅野 恭子 氏<br/>           （大阪府中央子ども家庭センター地域 相談課課長補佐・児童心理司）</p> | <p>保健所，市町村，相談<br/>           機関，児童福祉施設，<br/>           教育機関等<br/>           計93人</p> |



(2) 精神保健福祉業務従事者検討会

| 内容   | 参加者数                         |
|--|------------------------------|
| 業務検討及び情報交換<br>・措置対応について<br>・その他  | 保健所，市町村，医療機関等<br>計90人        |
| 1. 講話：「地域精神保健福祉の歴史を振り返り，今後を考える」<br>講師： 富永 秀文（鹿児島県精神保健福祉センター 所長）<br><br>2. 講話：「改正精神保健福祉法における医療と福祉の連携」<br>講師： 大園 佳子（鹿児島県精神保健福祉センター 参事付）<br><br>3. 報告<br>①「保健所における取り組み」<br>報告者：勇 成美 技術専門員（名瀬保健所）<br>②「病院における取り組み」<br>報告者：笹平 瑞佳 課長<br>（社会医療法人慈生会ウエルフェア九州病院 地域医療福祉連携課）<br><br>4. グループワーク<br>事例検討「望む生活の支援方策を考える<br>～各々の役割確認と連携協働～」<br>助言者：笹川 純子 精神保健福祉対策監（鹿児島県障害福祉課） | ※業務検討及び情報交換は障害福祉課，保健所職員22人参加 |

(3) 高次脳機能障害者支援のための研修（高次脳機能障害者支援センター）

| 内容  | 参加者数   |
|---|--|
| <p>【高次脳機能障害者支援のための研修（南薩保健医療圏）】</p> <p>1. 講演：「高次脳機能障害の診断とリハビリテーション<br/>～社会復帰に向けて～」</p> <p>講師： 緒方 敦子 氏（鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンター 医師）</p> <p>2. 講演：「精神保健福祉手帳申請等に係る診断書作成の要点」</p> <p>講師： 富永 秀文（鹿児島県精神保健福祉センター 所長）</p> | <p>医療機関，<br/>障害者就業・生活<br/>支援センター，<br/>保健所，市町村，<br/>介護保険関係施<br/>設，<br/>相談支援事業所</p> <p>計79人</p>  |
| <p>【ネットワーク連絡会】</p> <p>1) 高次脳機能障害者支援センターの相談支援の現状</p> <p>2) 事例検討会</p> <p>助言者： 緒方 敦子 氏（鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンター 医師）<br/>富永 秀文（鹿児島県精神保健福祉センター 所長）</p>   | <p>医療機関，<br/>障害者就業・生活<br/>支援センター，<br/>保健所，市町村，<br/>介護保険関係施<br/>設<br/>相談支援事業所</p> <p>計60人</p>   |
| <p>【高次脳機能障害者支援のための研修会】</p> <p>1. 講演：「失語症のある高次脳機能障害者の支援について」</p> <p>講師 種村 純 氏（川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科 学科長）</p> <p>2. 講演：「高次脳機能障害者の在宅における<br/>リハビリテーションの方法」</p> <p>講師： 中島 恵子 氏（帝京平成大学大学院臨床心理学研究科 教授）</p>           | <p>一般県民（当事者<br/>，家族会を含む）<br/>医療機関，<br/>保健所，市町村，<br/>介護保険関係施<br/>設<br/>相談支援事業所</p> <p>計203人</p> |
| <p>【高次脳機能障害者支援のための専門家研修】</p> <p>講演：「高次脳機能障害の生活訓練・職能訓練の実際<br/>支援のあり方」</p> <p>講師： 長谷川 真也 氏（名古屋市総合リハビリテーションセンター<br/>高次脳機能障害者支援部支援課 課長）</p>   | <p>医療機関，<br/>障害者職業セン<br/>ター<br/>保健所，市町村<br/>相談支援事業所<br/>家族会等</p> <p>計178人</p>                  |
| <p>【高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会】</p> <p>1) 高次脳機能障害者支援センター活動報告</p> <p>2) 事例検討，意見交換</p> <p>助言者：長谷川 真也 氏（名古屋市総合リハビリテーションセンター<br/>高次脳機能障害者支援部支援課 課長）<br/>緒方 敦子 氏（鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンター 医師）</p>                            | <p>支援拠点病院，<br/>支援協力病院，<br/>障害者職業セン<br/>ター，<br/>保健所，市町村，<br/>相談支援事業所</p> <p>計100人</p>           |

(4) 自殺対策に関する研修会（自殺予防情報センター事業含む）

| 内容  | 参加者数  |
|---|---|
| <p>【自殺対策関係者研修（子どもの自殺予防）】</p> <p>1. 講演：「子どもの自殺予防教育について」<br/>講師： 阪中 順子 氏（四天王寺学園 臨床心理士・学校心理士）</p> <p>2. 取組紹介「鹿児島県教育委員会の取組」<br/>講師： 辻 慎一郎 氏（鹿児島県教育庁義務教育課 主任指導主事兼係長）</p>   | <p>保健所，市町村<br/>教育機関<br/>児童施設<br/>医療機関<br/>相談機関等</p> <p>計107人</p>  |
| <p>【自殺対策関係者研修（災害のファーストエイド）】</p> <p>1. 講演及び演習：「災害に関する基礎知識と<br/>サイコロジカルファーストエイドについて」<br/>講師： 久我 弘典 氏（国立病院機構 肥前精神医療センター 精神科医師）<br/>（佐賀県DPAT統括）</p> <p>2. 講演及び演習：「メンタルヘルスファーストエイドについて」<br/>講師： 高尾 碧 氏（国立病院機構 肥前精神医療センター 精神科医師）<br/>（佐賀県DPAT先遣隊隊員）</p> | <p>保健所，市町村<br/>医療機関<br/>相談機関<br/>教育機関<br/>消防・警察等</p> <p>計92人</p>  |
| <p>【自殺対策関係者研修（ネット依存）】</p> <p>1. 講演：「ネット依存の実態と予防や治療の実際について」<br/>講師： 三原 聡子 氏（国立病院機構 久里浜医療センター 臨床心理士）</p> <p>2. 講演：「本県における児童・生徒のネット依存の傾向について」<br/>講師： 戸高 成人 氏（NPO法人ネットポリス鹿児島 理事長）</p> <p>3. 報告：「県内医療機関のネット依存に関する対応調査について」<br/>説明： 鹿児島県精神保健福祉センター</p> | <p>保健所，市町村<br/>教育機関<br/>医療機関<br/>相談機関等</p> <p>計133人</p>           |
| <p>【自殺対策関係者研修（職場の自殺予防）】</p> <p>1. 講演：「職場における自殺予防とその対応」<br/>講師： 廣 尚典 氏（産業医科大学産業生態科学研究所 精神保健学 教授）</p> <p>2. 取組紹介「鹿児島産業保健総合支援センターの取組」<br/>講師： 上園 敏朗 氏（鹿児島県産業保健総合推進センター 副所長）</p>  | <p>保健所，市町村<br/>企業・事業所<br/>医療機関<br/>相談機関<br/>教育機関等</p> <p>計79人</p> |

### 3. 精神保健福祉相談

心の健康相談や精神医療に係る相談、アルコール、薬物、思春期、認知症に関する相談など精神保健福祉全般の相談を実施している。

#### ①来所相談

##### (1) 来所相談件数推移

| 年度     | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 新規     | 129    | 151    | 109    |
| 再来     | 44     | 36     | 40     |
| 計      | 173    | 187    | 149    |
| (延べ件数) | (351)  | (347)  | (297)  |

##### (2) 新規相談者の内訳 (平成26年度)

##### (2) - 1 年齢別相談者人数

| 年齢 | ～9 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70以上 | 不明 | 計  |
|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|----|
| 男  | 0  | 12  | 11  | 18  | 16  | 6   | 4   | 2    | 1  | 70 |
| 女  | 0  | 4   | 6   | 13  | 4   | 6   | 3   | 2    | 1  | 39 |

##### (2) - 2 相談理由別人数

| 相談理由               | 人数 | 相談理由       | 人数  |
|--------------------|----|------------|-----|
| 気分が不安定             | 13 | おかしい言動     | 7   |
| 眠れない               | 2  | 飲酒に伴う問題    | 12  |
| 食事がとれない            | 1  | 薬物依存の問題    | 1   |
| 不安・恐怖・こだわりが強い      | 6  | ギャンブルに伴う問題 | 9   |
| 学校に行けない, 学校に適応できない | 3  | 家族・近隣との問題  | 6   |
| 職場に行けない, 職場に適応できない | 3  | その他行動上の問題  | 19  |
| 家から外に出ることができない     | 1  | 性格・対人関係の問題 | 11  |
| もの忘れ               | 1  | その他        | 14  |
| 計                  |    |            | 109 |

##### (2) - 3 相談の処置別人数

| 処置    | 人数  |
|-------|-----|
| 継続    | 23  |
| 他機関紹介 | 33  |
| 終結    | 53  |
| 計     | 109 |

## ②電話相談

### (1) 電話相談延べ件数推移

| 年度   | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 延べ件数 | 1,793  | 1,281  | 1,384  |

### (2) 相談内容（平成26年度）

|              | 相談内容                      | 人数    |
|--------------|---------------------------|-------|
| 精神科疾患に関すること  | 病気・治療・薬のこと                | 161   |
|              | うつ・うつ状態                   | 28    |
|              | 社会復帰・福祉制度等                | 28    |
|              | 人間関係・日常生活                 | 352   |
|              | 家族等の対応                    | 55    |
|              | その他                       | 90    |
| 認知症・介護に関すること |                           | 11    |
| アディクション関連問題  | アルコール                     | 67    |
|              | シンナー・薬物                   | 19    |
|              | ギャンブル                     | 43    |
|              | 過食・拒食等                    | 8     |
|              | その他                       | 7     |
| 思春期問題に関すること  | 不登校・ひきこもり                 | 24    |
|              | 学校生活（いじめ・友人関係等）に関する<br>こと | 4     |
|              | 情緒不安定                     | 7     |
|              | 身体的不調（頭痛・腹痛・倦怠感等）         | 9     |
|              | 性格・行動                     | 56    |
|              | 発育・発達に関すること               | 3     |
|              | 非行・反社会的行動                 | 2     |
|              | その他                       | 33    |
| 心の健康に関すること   | 言動が奇異                     | 28    |
|              | 気分の落ち込み・うつ状態              | 27    |
|              | 希死念慮                      | 4     |
|              | 不安・恐怖・こだわり                | 9     |
|              | 家族関係の悩み・ストレス              | 54    |
|              | 職場関係の悩み・ストレス              | 29    |
|              | その他人間関係の悩み・ストレス           | 40    |
|              | ひきこもり                     | 16    |
|              | DVに関すること                  | 5     |
|              | 病院・相談機関等の情報               | 36    |
|              | その他                       | 41    |
| その他          |                           | 88    |
| 計            |                           | 1,384 |

#### 4. 調査研究 (Ⅲ 資料を参照)

地域精神保健福祉活動を推進するために以下の調査研究を行った。

「自殺対策に係る精神保健福祉センター（自殺予防情報センター）の役割  
 についての一考察」

#### 5. 関係団体の育成

地域精神保健福祉の向上を図るため、家族会、患者会等の支援を行っている。

(平成26年度)

| 対象              | 内容               | 回数 |
|-----------------|------------------|----|
| 鹿児島県精神障害者家族会連合会 | 理事会, 総会, 実行委員会等  | 15 |
| かごしまデイケア連絡協議会   | 総会, 研修会          | 3  |
| 鹿児島県断酒友の会       | 総会               | 1  |
| アルコール依存症家族の会    | ミーティング           | 12 |
| セルフヘルプネットかごしま   | 例会, フォーラム(実行委員会) | 14 |
| こころ・つむぎの会       | 例会               | 6  |
| その他             | ユーザーネット, ふらむ等    | 2  |
| 計               |                  | 53 |

#### 6. 精神医療審査会の審査に関する事務

精神科病院に入院中の者や家族等からの退院や処遇改善の請求についてその請求が適正であるか、また、医療保護入院の届出、措置入院者及び医療保護入院者に係る定期病状報告書について、その入院の必要性を審査している。

##### ①審査会開催状況

合議体審査会・・・24回(8回×3合議体)  
 全体会・・・・・・・・・・ 1回

##### ②退院等請求の審査状況推移

| 年度  | 措置入院者<br>定期病状報告書 | 医療保護入院者<br>入院届 | 医療保護入院者<br>定期病状報告書 | 計     | 退院・処遇<br>改善請求件数 | 退院・処遇<br>改善請求<br>審査件数 |
|-----|------------------|----------------|--------------------|-------|-----------------|-----------------------|
| H22 | 51               | 2,259          | 1,758              | 4,068 | 129             | 68                    |
| H23 | 37               | 2,475          | 2,055              | 4,567 | 123             | 77                    |
| H24 | 28               | 2,221          | 1,919              | 4,168 | 117             | 80                    |
| H25 | 14               | 2,271          | 2,028              | 4,313 | 97              | 53                    |
| H26 | 25               | 2,298          | 2,001              | 4,324 | 101             | 71                    |

## 7. 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務

自立支援医療費（精神通院）の支給認定および精神障害者保健福祉手帳の申請に対する審査を行い、受給者証および手帳の交付を行っている。

### ① 自立支援医療費（精神通院）

#### (1) 自立支援医療費（精神通院）申請承認件数推移

|      | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 申請件数 | 20,576 | 20,951 | 22,240 |
| 承認件数 | 20,576 | 20,951 | 22,240 |

#### (2) 疾患名・年齢別自立支援受給者証交付者数（平成26年度）

| 疾患名                                    | 総数                                | 自立支援受給者証交付者数 |                |                |                |       |    |
|--|-----------------------------------|--------------|----------------|----------------|----------------|-------|----|
|  |                                   | 20歳未満        | 20歳以上<br>40歳未満 | 40歳以上<br>65歳未満 | 65歳以上<br>75歳未満 | 75歳以上 |    |
| F0 症状性を含む器質性精神障害                       | 890                               | 1            | 80             | 300            | 176            | 333   |    |
| F1                                     | F10 アルコール使用による精神及び行動の障害           | 614          | 0              | 43             | 375            | 166   | 30 |
|  | 覚せい剤及び覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | 50           | 0              | 18             | 27             | 5     | 0  |
| F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害               | 9,431                             | 46           | 2,078          | 5,786          | 1,309          | 212   |    |
| F3 気分(感情)障害                            | 6,965                             | 37           | 1,763          | 4,077          | 892            | 196   |    |
| F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害            | 1,140                             | 36           | 468            | 547            | 63             | 26    |    |
| F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群              | 35                                | 3            | 14             | 11             | 4              | 3     |    |
| F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害                   | 114                               | 0            | 43             | 61             | 7              | 3     |    |
| F7 精神遅滞[知的障害]                          | 251                               | 5            | 94             | 129            | 20             | 3     |    |
| F8 心理的発達の障害                            | 252                               | 82           | 128            | 41             | 0              | 1     |    |
| F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害 | 180                               | 132          | 38             | 10             | 0              | 0     |    |
| F99 特定不能の精神障害                          | 2                                 | 0            | 0              | 1              | 0              | 1     |    |
| G40 てんかん                               | 2,316                             | 449          | 792            | 884            | 164            | 27    |    |
| 計                                      | 22,240                            | 791          | 5,559          | 12,249         | 2,806          | 835   |    |

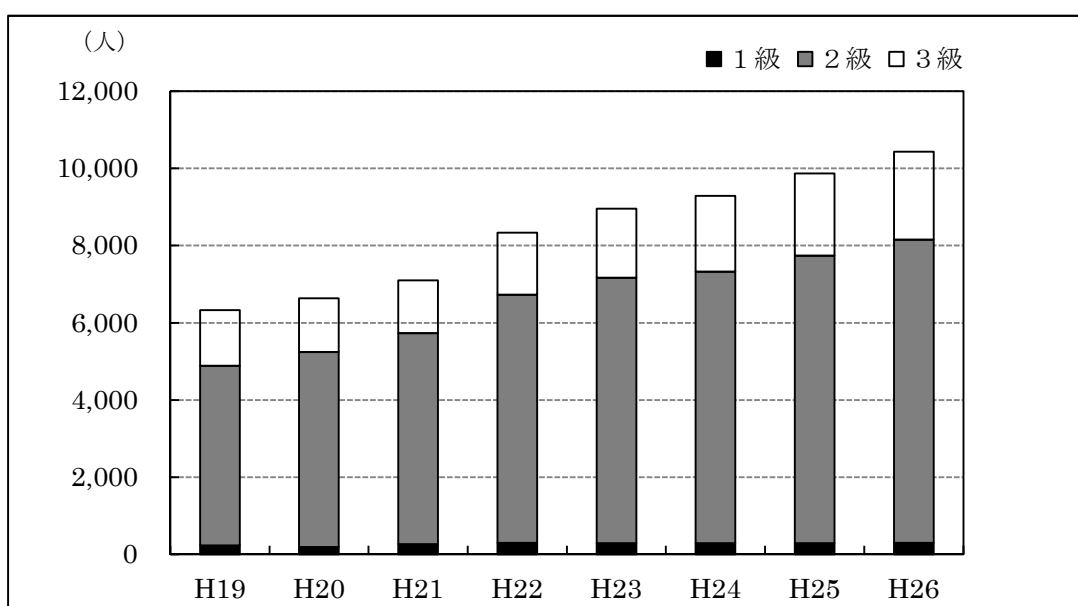
②精神障害者保健福祉手帳所持者数推移

(単位：人，%)

| 年度  | 1級  | 2級    | 3級    | 計      |
|-----|-----|-------|-------|--------|
| H19 | 238 | 4,646 | 1,446 | 6,330  |
|     | 3.8 | 73.4  | 22.8  |        |
| H20 | 193 | 5,045 | 1,394 | 6,632  |
|     | 2.9 | 76.1  | 21.0  |        |
| H21 | 268 | 5,459 | 1,373 | 7,100  |
|     | 3.8 | 76.9  | 19.3  |        |
| H22 | 299 | 6,424 | 1,610 | 8,333  |
|     | 3.6 | 77.1  | 19.3  |        |
| H23 | 292 | 6,877 | 1,788 | 8,957  |
|     | 3.3 | 76.8  | 20.0  |        |
| H24 | 292 | 7,029 | 1,968 | 9,289  |
|     | 3.1 | 75.7  | 21.2  |        |
| H25 | 293 | 7,445 | 2,126 | 9,864  |
|     | 3.0 | 75.5  | 21.6  |        |
| H26 | 304 | 7,848 | 2,280 | 10,432 |
|     | 2.9 | 75.2  | 21.9  |        |

※手帳の有効期限切れを除く，各年度末の所持者数を記載

※上段は所持者数，下段は構成比



精神障害者保健福祉手帳所持者数



## 8. 高次脳機能障害者支援センター

高次脳機能障害者への支援拠点機関として、精神保健福祉センター内に高次脳機能障害者支援員が置かれており、高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの充実、関係者への研修等を行っている。

### ①来所相談

- ・来所相談延べ件数推移

| 年度   | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 延べ件数 | 57     | 66     | 73     |

### ②電話相談

- ・電話相談延べ件数推移

| 年度   | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 延べ件数 | 236    | 337    | 361    |

## 9. 自殺予防情報センター

自殺対策を推進するため、精神保健福祉センター内に自殺対策調整員が置かれており、自殺に関する情報収集・分析、情報提供や自殺対策に関わる団体・人材の育成、自死遺族等の支援を行っている。

### ①来所相談

- ・来所相談延べ件数推移

| 年度   | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 延べ件数 | 13     | 19     | 14     |

### ②電話相談

- ・電話相談延べ件数推移

| 年度   | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 延べ件数 | 500    | 516    | 504    |

# III 資料

# 自殺対策に係る精神保健福祉センター(自殺予防情報センター)の役割についての一考察

○田原直子 郡山たか子 富永秀文(鹿児島県精神保健福祉センター)  
白坂涼子(鹿児島県自殺予防情報センター)

## 1 はじめに

平成10年以降、自殺者数が増加した中、平成18年に自殺対策基本法が施行され、国を挙げての本格的な自殺対策の取組が始まった。本県においても平成21年9月に精神保健福祉センター内に自殺予防情報センターを設置し(以下、センターと記載)、自殺対策の推進に努めている。

近年、自殺者数の減少傾向が見られるようになり、こうした取組の効果が、徐々に現れてきているのではないかと考えられているが、依然、多くの方が自殺で亡くなられている厳しい状況は続いており、地域の実情に応じた、より実践的な取組の推進が必要である。

今回、より効果的な自殺対策の推進に資することを目的に、県内市町村及び県保健所へアンケート調査を行い、自殺対策に係るセンターの役割について検討したので報告する。

## 2 方法

(1) 県内43市町村、13県保健所の自殺対策事業担当者を対象にアンケート調査を実施(回収率100%)

(2) 調査内容

- ① 自殺対策リーフレット・マニュアル等(以下、リーフレット等と記載)の活用状況:調査対象リーフレット等は(表1)のとおり(以下、A~Fの記号で記載)
- ② 各地域における自殺対策の優先度
- ③ 自殺対策においてセンターに期待すること

(3) 調査期間:平成26年10月~11月

(4) 調査方法:使送便・電子メールで調査票及びリーフレット等原本を送付し、電子メールで調査票を回収

## 3 結果

(1) 「自殺対策リーフレット・マニュアル等」の活用状況

### ① 各種リーフレット等の認知度

県保健所ではA~F全て100%、市町村ではA90.7%、B88.4%、C93.0%、D76.7%、E86.0%、F74.4%の認知状況であった。

### ② リーフレット等の活用状況

リーフレット等を認知していた市町村・県保健所のうち、活用している割合は(図1)、活用方法の内訳は(図2)のとおりであった。「知らなかった」以外で活用していない理由としては、A~Cについて「配布数が少ない」、Dについて「若者世代の相談事例は少ない、今後は成人式等で活用予定」、Eについて「遺族に対応する機会が少ない、配布数が少ない」、Fについて「簡単には使いにくい(じっくり見る時間がない)」等の意見があった。

### ③ 相談支援に役立った・効果があった例

市町村では、B、C、E、県保健所では、B、F、C、E、C、E同数の順に多く、A~Eでは「相談窓口の一覧が役立つ、配布先に好評、キャンペーンで配布したところ興味を示されイベント参加に繋がった」、Fでは、「初めて担当になったとき心

強かった、職場で自死があった際に関係者と対応を共有できた、緊急時の判断に役だった」等の意見があった。

## ④ 今後、必要と思われるリーフレット等

1) 一般向け「正しい知識の啓発(本人・周囲の気づきを促すもの)、相談窓口の周知・紹介等」、2) 若者向け「家族間の交流や気づきに繋がるもの、若者が手にしたくなるコメントやイラストを使用したもの等」、3) 就労者向け「事業主・就労者同士の気づき・対応のポイント、職場研修等で活用できるDVD等」、4) 依存症者及びその家族向け「正しい知識の啓発、自助グループの紹介等」の順に多かった。

## (2) 各地域における自殺対策の優先度

「1若年層の自殺予防」、「2子育て層の自殺予防」、「3中高年層の自殺予防」、「4高齢者層の自殺予防」、「5自殺未遂者の自殺予防」、「6精神科疾患関連(うつ病)」、「7精神科疾患関連(うつ病以外)」、「8職場の自殺予防」、「9自死遺族支援」、「10その他」の10項目から、各地域において優先度が高いと思われる上位3項目の選択及び、背景・理由を自由記載。

市町村(n=43)では、「中高年層」29、「高齢者層」26、「精神科疾患(うつ病)」26の順、県保健所(n=13)では、「中高年層」11、「高齢者層」10、「自殺未遂者」5の順に多く、各項目の回答率は(図3)のとおりであった。「その他」では、「相談支援の環境・体制づくり」等の意見があった。

## (3) 自殺対策においてセンターに期待すること

「1自殺に関する情報提供」、「2人材育成研修」、「3関係機関との連携体制づくり」、「4自死遺族支援」、「5地域主催の研修・会議等の技術支援」、「6その他」の6項目から複数回答。

市町村(n=43)では、「情報提供」・「人材育成研修」・「技術支援」が各20、県保健所(n=13)では、「情報提供」・「人材育成研修」10、「技術支援」8の順に多く、各項目の回答率は(図4)のとおりであった。「その他」では、「県民の自殺に係る意識調査」、「事例検討や助けられた事例の紹介」等の意見があった。

## 4 考察及びまとめ

### (1) リーフレット等の活用状況

当センターでは、「1自殺に関する情報収集・分析、評価」、「2自殺対策に係る人材の育成」、「3関係機関との連携強化」、「4自死遺族等の支援」を中心とした自殺対策事業を実施しており、その一環として、「自殺対策リーフレット等」の作成・配布を行っている。

リーフレット等の認知度は、最も低いものでF74.4%、活用状況では、Eの73.0%であり、概ね認知・活用されている状況が分かった。

知らなかった理由としては、「担当者変更の際に引き継がれなかった、一部の職員しか知らなかった」等の意見があり、毎

年度、担当者変更時期の担当省会議等の場において継続して周知を図る必要があると思われた。

また、活用していない理由としては、「対象の相談が少ない、配布数が少ない」等の意見があった。配布数については、精神保健福祉センターのホームページでダウンロードできることを上記会議等の際に併せて周知していきたい。

また、内容についても、今回の調査に寄せられた意見を参考に、より効果的なものとしていきたいと考える。

## (2) 自殺対策の優先度

保健所・市町村いずれにおいても、「中高年層」、「高齢者層」の順に優先度が高く、次いで、市町村は「精神疾患(うつ病)」（高齢者層と同数）、保健所は「自殺未遂者」であった。

「中高年層」「高齢者層」については、県全体においても、自殺者全体の6割弱を占め、他年齢の自殺者数が減少傾向にある中、70歳以上の自殺者数が増加している現状(図5)や、単身高齢世帯や高齢夫婦世帯が多い地域の状況から重要な課題であると考ええる。

また、「精神疾患(うつ病)」、「自殺未遂者」については、自殺との関連性が深い群であることが分かっていることから、ハイリスク者支援としての取組も重要であると考ええる。

今回の調査において、多くの市町村・県保健所が、回答の背景・理由に、「地域統計の分析結果や課題、日頃の相談等から肌で感じる現状や課題、地域性(小さな地域で世間体を気にする等)」等について、各地域の具体的な現状や課題を記載しており、自殺総合対策大綱の見直しで示されている、「地域の実情を捉えた地域レベルの実践的な自殺対策」に向け、取り組まれているものと思われた。

それぞれの取組が円滑に推進されるよう、センターとして取組めることを検討していきたいと考える。

## (3) 自殺対策において当センターに期待すること

市町村・保健所とも、「自殺に関する情報提供」、「人材育成研修」、「地域主催の研修・会議等の技術支援」の順に多かった。「情報提供」としては「自殺の現状・分析、県民への正しい知識・相談窓口情報等の周知」等、「人材育成研修」については、「現状のような職員のスキルアップ研修の継続、県の方針やそれぞれの取組を共有できる研修」等、「技術支援」については、「講師派遣、困難事例等の支援に係る相談対応」等の意見が多かった。

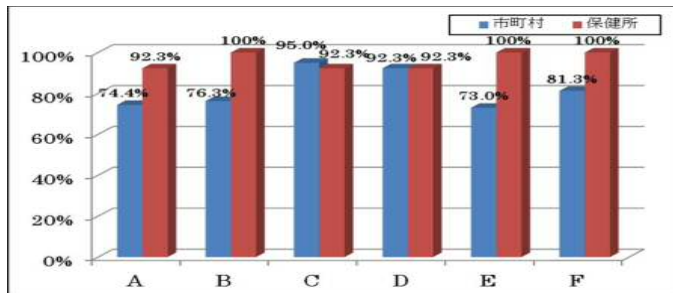
今回の調査で得られた示唆を踏まえ、「中高年層」「高齢者層」の自殺対策に係る研修・情報共有の場の設定や、「ハイリスク者等支援」に係る事例検討等、当県の実情に即した、より効果的な取組の推進に努めていきたいと考える。

(表1) 自殺対策リーフレット・マニュアル一覧

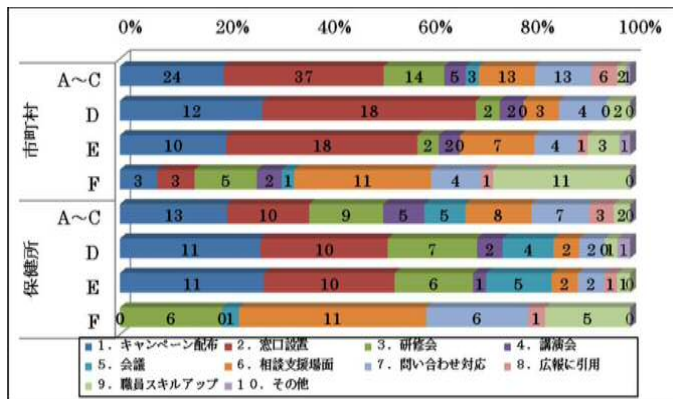
| 記号 | 名称                    | スタイル     |
|----|-----------------------|----------|
| A  | 一人で悩んでいませんか?          | A4 三つ折り  |
| B  | 一人で悩んでいませんか?          | A4 サイズ8面 |
| C  | 一人で悩んでいませんか?          | ポケットサイズ  |
| D  | 若者の君たちへ! 一人で悩んでいませんか? | ポケットサイズ  |
| E  | 大切な人を自死でなくされたあなたへ     | A4 三つ折り  |
| F  | 鹿児島県自殺対策相談マニュアル       | 冊子179頁   |

※鹿児島県精神保健福祉センターホームページに掲載(ダウンロード可能)

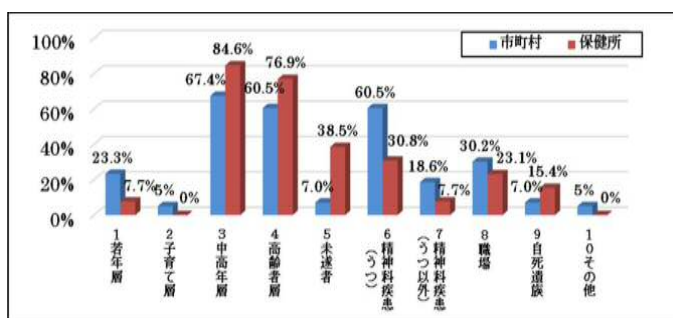
(図1) リーフレット・マニュアルの活用状況



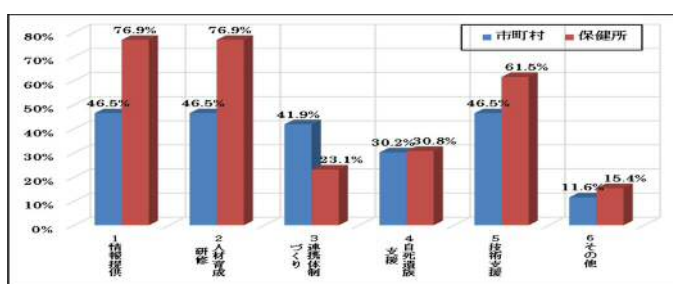
(図2) リーフレット・マニュアルの活用方法内訳



(図3) 市町村・保健所における自殺対策の優先度



(図4) 自殺対策においてセンターに期待すること



(図5) 鹿児島県の年代別自殺者数の推移(人口動態統計)

